

始



大正十五年一月

東京帝室博物館案内 繪畫部

東京帝室博物館案内 繪畫部 (大正十五年一月)

第二室

(第一函 藤原時代)

御物 繪殿聖德太子繪傳

絹本着色五隻

聖德太子の御一生を畫いたもので、もと法隆寺東院繪殿の障子繪で同殿の名もこれに由來するが、後世屏風に改装せられたものである。この裏面に貼付けた文書によれば此繪は後三條天皇の延久元年に秦致眞の畫いたものである。しかし同年に造立せられた法隆寺の太子七歳御像の胎内銘にはその彩繪師の名が秦致眞と判讀されるから蓋し同人で字形の相似た爲眞が眞に誤り傳へられたものか。猶右文書によればこの障子繪は建武五年を初めとして近年に至るまで數度に亘つて修復後補を重ねてゐるので、製作當初の藤原風なおもがげの殆んど失はれてゐるのを憾みとするが、繪殿の名に由緒深きこの繪が作家の名に併せて今日に遺存するは有難い。

(第二函 足利時代)

御物 舍利殿繪屏風

絹本着色六隻



御物 舍利殿繪屏風

この繪も同じく法隆寺東院内の舍利殿の障子繪であつたのが屏風に改装されたものである。これは主題を支那史料に採り商山の四皓と渭水に釣する太公望の故事を畫いてある。その筆致にも彩色にも鎌倉佛畫の傳統的手法が窺はれるが、題材が新しいだけに描寫にもおのづから新味を出さうとしてゐるかに思はれ、蓋し足利初世佛繪師の手になつたものか。

(第三函 鎌倉時代)

餓鬼草紙繪卷 (國寶)

紙本着色一卷

岡山曹源寺藏

詞繪各々七段に別れてゐる。各段とも骨の露はな餓鬼どもの飢渴にもだえ苦しむ光景を暢達した自由な筆で畫いたもので、各場面はその詞の内容に應じて中々よく描出してある。蓋し鎌倉時代の製作とおぼしく、當時佛教信仰が地獄や餓鬼等の暗黒方面に關する思想に向つてますます進展すると共に此種醜怪汚穢な光景をまぎくと描き出した繪卷の如きもおのづから生れるやうになつたのであらう。

(第四函 鎌倉時代)

住吉物語繪卷

紙本着色一卷

本館藏

この繪卷は土佐長隆の筆と傳へられてゐるもので長さ一丈ばかり、全く詞書がない今剝落が甚だしいがもと色彩の濃麗なもので筆致も精細で物語の内容に恰當はしい優雅な趣に富んでゐる。蓋し繪卷物の最も榮えた鎌倉初頃のものと思はれる。

第三室

(第一函 徳川時代)

中壽老 左右松竹圖 眞敬親王筆 紙本墨畫三幅 男爵 水谷川忠 府藏

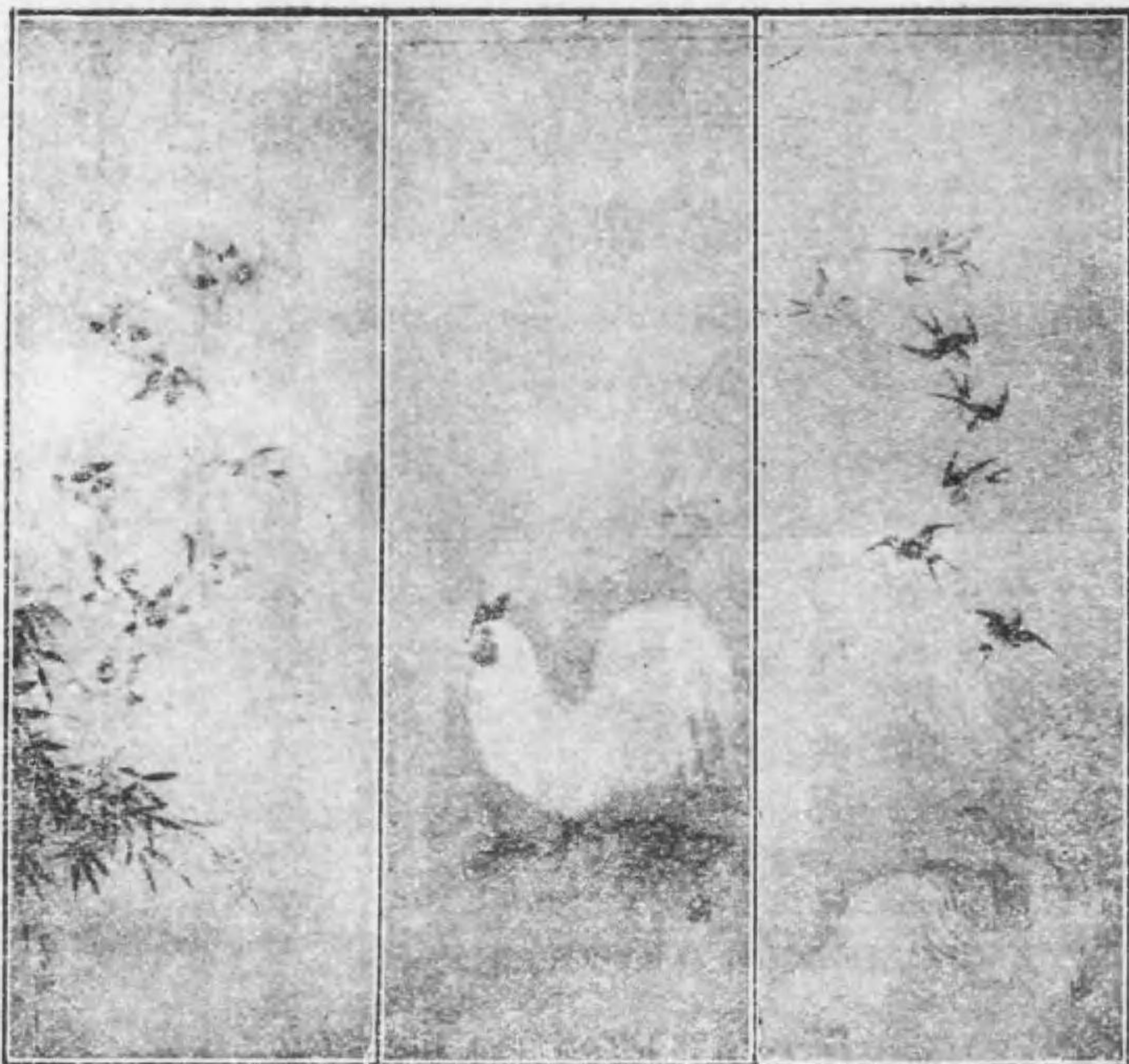
眞敬親王(寶永三年薨)は後水尾天皇の第十二子で一乗院に入り、薙髮して興福寺別當となられた方でその畫は探幽に學ぶと傳へられる。欸に丁丑春とあるから元祿十年の作か。

中福祿壽 左右牡丹芙蓉圖 狩野尙信筆 絹本着色三幅 本館藏

中鷄 左右燕雀圖 狩野常信筆 同 同

中布袋 左右雁鷄圖 狩野益信筆 紙本墨畫三幅 同

尙信(慶安三年歿)は木挽町狩野の祖、益信(元祿七年歿)は駿河臺狩野の祖、常信(正徳三年歿)は尙信の子である。いづれも徳川初世畫壇を風靡したこの派の重鎮で是等の諸幅皆熟練した狩野派獨特の筆觸を以て草々の間おのづから趣の豊かなものがある。



中定家 左右馬鵲圖 土佐光起筆

絹本着色三幅 神谷傳兵衛藏

中壽老 左右鹿鶴圖 土佐光貞筆

同 同

三平 二一滿圖 小川破笠筆

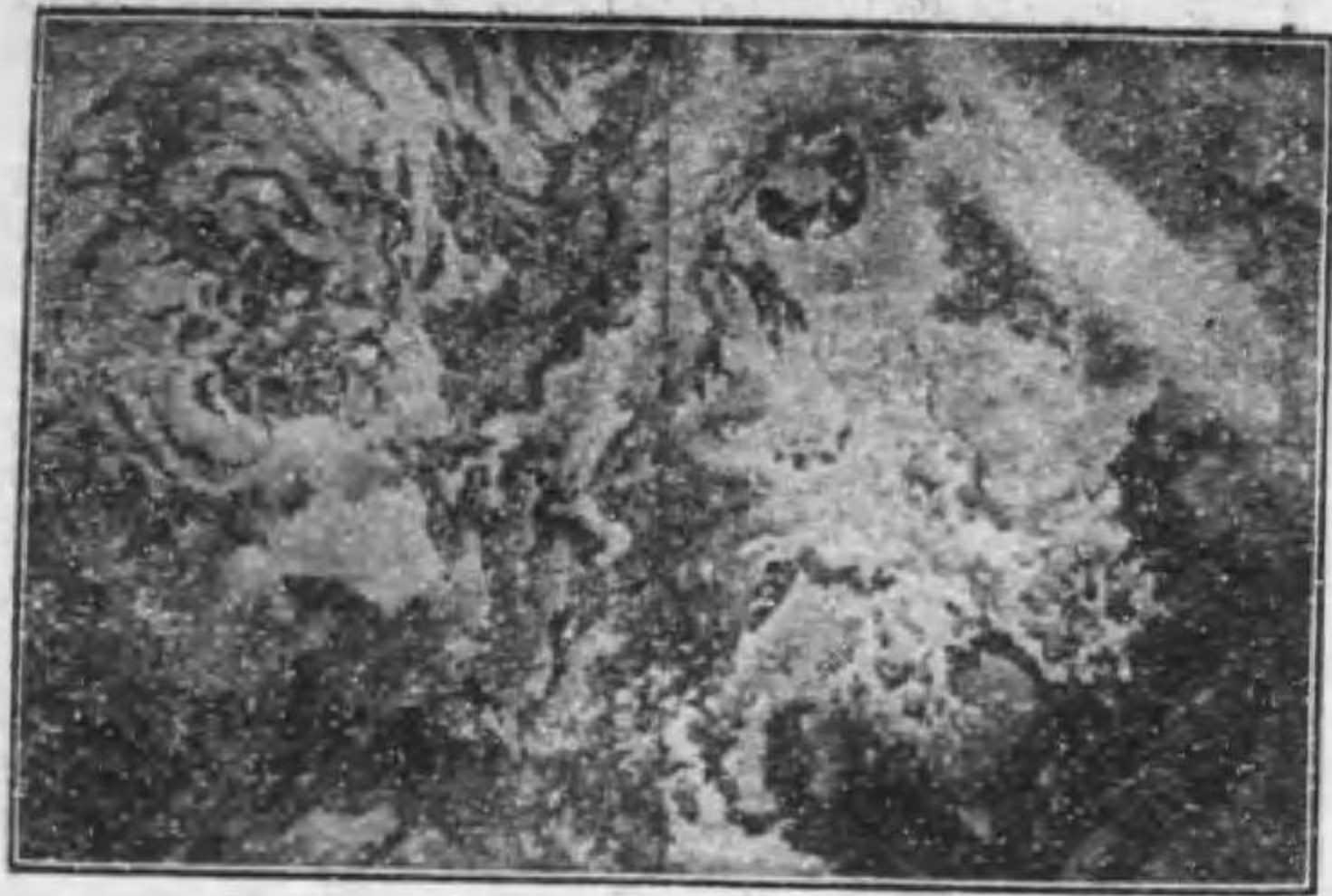
絹本着色一幅 本館藏

常信筆 光起(元祿四年歿)は徳川初期土佐派復興の名手として知られ繪所預となつた。光貞(文化三年歿)もまたその後に出て繪所預となつた此派の直流である。小川破笠(延享四年歿)は師承明らかならず、或は土佐といひ或は狩野

榮川の門人など、云はれてゐる。圖はその款によつて破笠六十四歳の作であることが知られる。

(第二函 徳川時代)

花鳥圖屏風 曾我二直庵筆 紙本着色一雙ノ内 本館藏



虎圖屏風 岸駒筆 本館藏

二直庵は直庵の子で、歿年を明らかにしないがその父が慶長年間に歿してゐるから蓋し徳川初世の畫家である。父と共に畫鷹を以て著はれ、武人畫家らしい勁健な筆を振つて主として花鳥を畫いた。本圖の如き又その特色を見るべき作例である。
虎に波濤圖屏風 岸駒筆 紙本着色一雙 本館藏
岸駒(天保九年歿)は徳川末期独自の畫境を開いた作家である。本圖の如き正に彼の得意な筆を振つたもので落款によれば文政六年七十五歳の作である。

淺間山圖屏風 亞歐堂田善筆 紙本着色一雙 本館藏

田善(文政五年歿)は通稱永田善吉といひ司馬江漢に油繪を學んだ人で、師等と共に日本油繪畫家の先驅者として注目せられる。

(第三函 徳川時代)

飛禽走獸畫卷 狩野探幽筆 絹本着色二卷 本館藏

奥書によれば走獸の方は寛文六年の作、飛禽の方はその翌年の作で探幽六十餘歳の晩年の筆になる。孰れも老熟圓渾な草筆に淡彩を以てしたものでその特技を窺知すべき勝れた作である。

四季花鳥畫卷 酒井抱一筆 絹本着色二卷 本館藏

抱一(文政十一年歿)は光琳に私淑して裝飾趣味に富んだ優雅な花鳥畫を製作した畫家として著名である。その特色を知るべき諸作例中の一としてこの双卷の如きは頗る傑出したものでその華麗な色彩と巧妙な筆觸と相俟つて趣致なか／＼に豊かである

大正十四年十二月廿八日印刷
大正十五年一月四日發行

〔定價金拾錢〕

東京帝室博物館

東京市芝區今入町二六

印刷者 鈴木安二

東京市芝區今入町二六

印刷所 鈴木印刷所

終

